「障害自立支援法案」反対の動きに思う

数人のメル友から、障害自立支援法案反対の動きについてのコメントを求められた。
自分は、次のような内容の返信をしている。

【　当ＨＰ「障害者自立支援法・案と、精神障害（「雑学」バックナンバー書籍等読後感関係（Ⅱ）Ｐ　2005.　5.12.：参照）」で触れたように、精神障害について知った今、この法案がまずは成立した方がいいのでないかと思っています。
同じ障害者と呼ばれながら、地域で生活するための社会の福祉システムである支援費制度の対象から外され、地域で共に生活する人として、認知、受容されていない精神障害者の存在をどう考えているのでしょうかね。
自分たちは差別されてきた存在、まだ差別されている存在というなら、今、自分たち同様に、またそれ以上の現状にある精神障害者のことも含めて、国への主張発信であって欲しいです。
「国が急いで作った法案だから、今しばらくは……」というのでは、「まだまだ、貴方たちは、地域社会から、疎外、排斥されていなさい！」というのと同じですものね。

マスコミも、精神障害ということばに過剰に反応し過ぎているのか、さっぱりこの側面からの検証報道はありませんよね。

ここのところが見えてこないので、自立支援法案の応益負担云々だけの主張は、精神障害のことが置いてきぼりで、何だか自分たちだけのことを考えての声のようにさえ聞こえます。
まずは、三障害が一緒に土俵に上がってから、行政を相手に相撲を取ってもいいのはないかと思います。

応益負担については、１割が負担が大きいなら、５分でも５厘でもいい。サービスを受けるには支払いをする平等関係だからこそ、サービスが悪ければ文句も言える。
例えば、このことは、ハンセン病の処遇の歴史に見られます。国策で全ての生活援助を国費で賄っていた。全てを国にお世話になっているのだからと、自らの被差別状態に甘んじて、人権回復運動に横やりを入れた同病の方々も多かったよう。
この歴史から学んで、自己存在の意識の上で、少しでも負担して対等関係を確保することが大事かと思います。

私が言うような単純な問題ではなく、複雑で多様な現実問題が絡んでくるかとも思えますので、ネットで検索するなりして色んな意見を参考に、あなたなりの見解をお持ち下さい。　】

（2005 年 5 月 28 日　記）